

第 1 部

□	ボンジョルノ・姫さま	Nicola Piovani（ニコラ・ピオヴァーニ）
	カンヌ映画祭で審査員グランプリ受賞、アカデミー賞 7 部門ノミネートのイタリア映画『ライフ・イズ・ビューティフル』の挿入曲。ナチスの強制収容所に収監されたある一家の物語を、ユーモラスかつ温かな視点で描く、ロベルト・ベニーニ監督主演のユーモアと哀しみを交錯させた珠玉の作品です。「ボンジョルノ・姫さま」は劇中幾度となく流れるとても美しい旋律の曲で、マンドリンでの演奏が一番合っていると言われています。 オープニング曲として指揮なしの演奏をお楽しみください。	

□	還俗修道士	Giuseppe Filippa（ジュゼッペ・フィリッパ）／中野二郎 編
	作曲者のジュゼッペ・フィリッパは、20 世紀初頭に活躍したイタリアの作曲家で、同市の指揮者及びロッシーニ音楽院の教授を長年務めました。修道僧とはキリスト教で清貧、貞操、服従の 3 つの修道誓願を立てた男子を云い、俗人に戻った修道士を「還俗修道士」と呼びます。本曲出版譜の表紙には、酒と鳥肉が描かれてあり禁欲を解かれた嬉しさをポルカで表しています。	

□	オブリビオン & リベルタンゴ	Astor Piazzolla（アストル・ピアソラ）／武藤理恵 編
	モダン・タンゴの鬼才と呼ばれるアストル・ピアソラ（1921 ～ 1992）は 20 世紀を代表する音楽家のひとりです。バンドネオン奏者として、また作曲家として活躍した彼はアルゼンチン・タンゴに革命的な進化をもたらしました。「オブリビオン」とは「忘却」という意味で、強い情熱を秘めながらも、暗い哀愁を漂わせる独特の雰囲気をもった曲です。「リベルタンゴ」は libertad（自由）+ tango（タンゴ）に由来する造語で皆さんもよく耳にする馴染みのある曲です。曲想は全然違いますが 2 曲とも同じ“タンゴ”です。その違いもお楽しみください。	

□	Paradiso	武藤理恵
	地上から空へまっすぐ伸びる一本の道。何かに誘われるように踏み出すと、今まで重かった足は軽くなり傷ついた背中には翼が生えていた。やがて目の前に扉が現れる。そっと押し開けるとそこには・・・ 深い森・色とりどりの花・豊かな水。すべての生き物たちの営みが輝き武器を捨てた兵士たちが微笑み合う。遠くの方で懐かしい人々が手を振っている。体や心の痛みから解き放たれ、悲しみの涙は喜びの涙に変わっていく。そう、ここは…Paradiso（パラディーゾ）… 作曲者ご本人から戴いた曲紹介です。	

~~~~~ 第 12 回定期演奏会選曲にあたって ~~~~~

第 6 回定期演奏会以降 2 人の指揮者でやってきた当部の定期演奏会ですが、もうひとりの指揮者である堀口敬佳が海外赴任中のため、今回は私一人での指揮ということになります。 選曲にあたっては、マンドリンの音色が活かされる曲であること、リズムや曲想に其々明確な違いがあることを意識しました。当部の理念でもある、管楽器や打楽器に極力頼ることなく「マンドリンの持つアコースティックな音色を大事にする」という観点からより良いハーモニーの響きを得るために、曲によっては 1 st マンドリンが 2nd パートを弾き、2 nd が 1 st を奏でる、という定石外の演奏にもチャレンジしています。奏法もトレモロ、ピッキングだけに留まらず、スルマニコ（サウンドホール寄りの柔らかな音で弾く）、スルポンテ（硬い音で弾く）、ミュート奏法（半消音）、更にはビブラート、ハンマリング（楽器を叩いて音を出す）、拍手・・・等々様々なテクニクも取り入れています。練習時間がなかなか取れないとう社会人団体共通の悩みもあり、曲の仕上がりには不十分な点が多々ありますが、皆さまが見て聴いて楽しんでいただける演奏を目指します。どうぞご期待下さい。		コンダクター 大久保 學
--	--	--------------

第 2 部

□	オアシスにて	Eliseo Marti（エルゼオ・マルティ）
	1921 年“イル・プレットロ”作曲コンクールで上位に入賞。作者はスペイン人ですが詳しいことは不明。『ラクダを連ねたキャラバンが、砂漠の砂嵐の中を長い道のりを旅してきてオアシスにたどり着く。そこには他のキャラバンも休んでいる。賑やかに談笑し、たっぷりの水と緑でうるおい、やがて元気をとりもどし、再び旅立って行く。』そんな情景をアラビア情緒ゆたかに大胆に描いたものです。 私たちとこの曲との出会いは第 1 回定期演奏会まで遡ります。30 年経った砂漠はどんな表情を見せてくれるでしょうか・・・	

□	雪 ～ロマンツァとボレロ	Giacinto Lavitrano（ジャチント・ラヴィトラーノ）／帰山栄治 編
	ジャチント・ラビトラーノは 19 世紀後半イキアス島に生まれ、ナポリの音楽学位で学んだ後、生涯の大半を地中海沿岸の都市ポーナ市に過しました。この曲は音楽誌“イル・プレットロ”作曲コンクールで 1 位に入賞した作品です。作者は主題に「Nieves= 雪」と書いていますが、ラビトラーノ自身生涯一度も雪を見たことがなく何故このタイトルをつけたのかは謎です。あるいは、作者のまだ見ぬ雪へのあこがれなのかも知れません。	

□	祈り	Ugo Bottacchiari（ウーゴ・ボッタキアリ）
	イタリア東部のマチェラータに生まれたウーゴ・ボッタキアリ（1879 ～ 1944）は管弦楽曲・吹奏楽曲・声楽曲等様々な分野での作品を多く残しています。マンドリン曲では「交響的前奏曲」「誓い」「夢の魅惑」等があります。本曲は、短いながら巧妙な和声による甘美でロマンティックな色彩を放つボッタキアリの世界が凝縮された魅力的な作品です。	

□	竹田の子守唄	小穴雄一 編
	有名な竹田の子守唄を、小穴雄一氏より提供いただいた譜面で演奏します。マンドリンの奏法の一つであるミュート奏法（ヴァイオリンのピッチカートに類似）から始まりトレモロによるメロディライン、やがて低音部によるピッキングが重なり合って日本の叙情的風景を情感たっぷりに表現しています。	

□	じょんがら抄	藤掛 廣幸
	マンドリンを嗜む西欧人が皆びっくりするのがこの“じょんがら”です。イタリアで育った西欧の楽器『マンドリン』からこのような音が出るとは想像もしていなかったのでしょうか。まさに日本の曲です。津軽じょんがら節をモチーフにジャズに於けるアドリブの要素を加味し出来上がった曲です。これは三味線ともジャズとも違うマンドリンのためのオリジナル作品です。元々は大編成の為に作られていますが、中間部を略し小編成でも演奏可能に編曲し直したのが“じょんがら抄”です。	

~~~~~ STAGE MEMBER ~~~~~

指揮	大久保 學	司会	山形 由紀子
コンサートマスター	有賀 良子(1 部) ／ 川辺 敦子(2 部)		
1st マンドリン	川辺 敦子	有賀 良子	小林 幹子
2nd マンドリン	内田由美子	網倉左知子	青木 千枝
マンドラ	三宅 圭子	川崎今朝雄	坂中 寿美
マンドチェロ	宮下 好恵	小林美智子(賛助)	
ギター	中込 夕紀	網倉 学	雨宮 久
ベース	遠山 忍	岸野 正美	川崎三千代